

令和 4 年 5 月 13 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05664

研究課題名(和文) アフリカン・シティズンシップの解明：ウガンダ社会の動態とシティズンシップの関連性

研究課題名(英文) Unraveling African Citizenship: The Relevance of Citizenship to the Dynamics of Ugandan Society

研究代表者

波佐間 逸博 (HAZAMA, Itsuhiro)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：20547997

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、存在論的転回[Latour 1993; Pickering 2017]を統合し、アフリカ遊牧民社会のシティズンシップの実践を社会・文化アクターのみならず、生態学的アクター、人道・開発、市場経済の外部アクターの相互作用として分析し、シティズンシップの生成・運用におけるエージェンシーの微視的・内在的な記録・資料化に努め、異種結節現地化(Currency localisation)概念を導出した。難民援護のグローバル・ガバナンスの再構築など、広範なコンテキストに援用可能だろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会の動態とシティズンシップの関連性を正面から見すえた本研究によって、国民国家の統治下におけるローカルレベルで、共同体・個人による能動的な参与をつうじて駆け引きや接合の対象とされる、いわば「下からのシティズンシップ」を十全に理解できるようになり、文化的アイデンティティの感覚とシティズンシップの観念が、周縁化によってもたらされた社会的、政治的困難へのレスポンスとして構築されているだけでなく、柔軟に大きく拡張され、トランスポーターな空間における諸共同体が含まれるように調整されるプロセスが解明された点で本研究の学術的・社会的意義が大いにあると思われる。

研究成果の概要(英文)：This study integrates the ontological turn [Latour 1993; Pickering 2017] and analyzes the citizenship practices of African nomadic societies as an interaction of not only social and cultural actors but also ecological actors, external actors in humanitarian and development, and market economy sectors. We have carried on a microscopic and emic record and documentation of agency in the generation and operation of citizenship, and have derived the concept of Currency localization meaning heterogeneous nodal localization. It may be applicable to a wide range of contexts, including the reconstruction of the global governance of refugee support.

研究分野：アフリカ地域研究、文化人類学

キーワード：シティズンシップ モビリティ フレキシビリティ コンヴィヴィアリティ 国内植民地

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

シティズンシップは、近代ヨーロッパに由来する国民国家の政治制度的運営の対象として論じられ、西洋社会に対しては、ヨーロッパの優位性を再生産しつつけるオリエンタリズムの概念的推進装置であると論じられる傾向にあった (Isin, 2012. *Citizenship after orientalism: an unfinished project*. *Citizenship Studies* 16(5-6): 563-572)。アフリカでは、近代国家システムの中で民族区分に従って市民と非市民とが分類、序列化され、ポストコロニアルにおける民族が、アフリカの国民 国家としての成熟をはばんできたと把握される (真島, 2000. 「市民概念の語用とその限界—リベリア共和国から」 武内進一 編『現代アフリカの紛争—歴史と主体』アジア経済研究所, pp.293-353)。この二つの研究傾向により、アフリカにおける「市民」は実質のとぼしい空虚な概念であると理解されてきた。そのために、アフリカで生を営む圧倒的多数者と構造的弱者が、地域的文脈にもとづきシティズンシップを柔軟に運用することによって、対話と理解の相互関係がつけられるという局面は、正面から問われることはほとんどなかった。

近代西洋には「境界をもった社会」という認識があり、この前提から、市民社会は個人の権利と義務を負う「市民」によって構成される。このシティズンシップの考え方は、近代ヨーロッパ型の共和主義から多文化主義にいたる思想や政治の仕組みの前提となっている。だが、この考え方には空間による境界が「市民」の成り立ちに由来するという視点がなく、社会の内部に移入してくる移民や難民との現実的な関係は無視される (Urry, 2000. *Sociology beyond Societies: Mobilities for the Twenty-First Century*. Routledge)。つまり、従来の市民 (シティズン) に内包されるのは固定的な人間像であって、それ以外の他者に対しては人間的な想像力がおよばない。しかしながら、ウガンダにおいては政治的・経済的周縁が多様な形で生まれ、共存的な対他関係を構築するための多くの取り組みがなされている。

本研究ではウガンダにおける周縁化された遊動民を対象にして、シティズンシップの動態を肯定的にとらえなおし、近代西洋に由来する理論的潮流を複数化することを目指した。具体的な対象社会は、都市人口の多数を占める下層出稼ぎ民、内地植民地化された辺境社会の牧畜民、公的な認定はえていないが市民権を主張する近隣の内戦国からの難民や移民たちの社会である。申請者らはこれまで、ウガンダの都市スラム部、湖畔漁村、牧野、国境地帯、難民居住区で現地調査をおこない、市民と非市民、強者と弱者を問わずさまざまな人びとが、国境の内外でウガンダのシティズンシップを柔軟に運用するのをまのあたりにしてきた。そして、近代市民社会における市民観 (シティズンシップ = 人間像) にとらわれず、かれら、国内外の他者と、ウガンダの国民国家との複雑な相互関係をシティズンシップの運用における柔軟性と確定性という観点からとらえながら、社会の動態を解明する研究を着想するにいたった。

人権、民主主義の理念と制度、自由市場とレッセフェールのグローバル化とともに進展するネオリベラリズムの渦中に現代のアフリカはある (Englund, 2006. *Prisoners of Freedom: Human Rights and the African Poor*. University of California Press)。そのような外的な諸力にさらされるなかで、シティズンシップは、明確な輪郭をそなえた社会範囲内で共有される内在論理が錯綜し、柔軟に主張・運用され、生活ネットワークの要になっている。このような問題意識とアプローチをふまえて、本研究では近代西洋への明確な差異と抵抗の基点として、複雑な人間的努力の経験と実感に基礎づけられた統合体であるアフリカン・シティズンシップの自己制定を浮きぼりにする。

2. 研究の目的

従来のシティズンシップ研究はアフリカにおける「市民」を、欧米のそれと対比して、実質のとぼしい概念であるととらえてきた。本研究では、公的な政治から周縁化されたウガンダの遊動民を対象にして、ローカル/トランスナショナル/グローバルという三層におけるシティズンシップを、他者共存の潜在的な可能性の束として肯定的に理解しなおす。すなわち、本研究の目的は、近代ヨーロッパ型共和主義 多文化主義を貫いているシティズンシップの考え方を超え、生活協働と相互扶助、対話・相互理解の可能性にむかって開かれている人間像としての「アフリカン・シティズンシップ」を探究することである。

3. 研究の方法

現代アフリカが共有するグローバル・イシューと対応づけられた問題意識・理論枠組みを活用して以下の三層のシティズンシップを設定し、社会空間としての市民圏の構築・主張・運用・変形を解明する。

本課題のおもな研究対象は、現代ウガンダにおける遊動民、すなわち移民 (出稼ぎ都市民) / 難民、漁撈民、牧畜民である。ローカル/トランスナショナル/グローバルの各層において、政治への新しい参加の形態が生み出される、シティズンシップの自己制定の過程と論理に焦点を合わせる。そして、ウガンダをめぐる多様な地域・状況において、近代市民的理念が優先されるものとはことなる、新しいシティズンシップ (すなわちアフリカン・シティズンシップ) が創造・運用される生活論理を検討する。アフリカン・シティズンシップの一般モデルを構築するための

調査フォーカスは、以下の三点である。

ローカル・シティズンシップ：

現代史において排除・同化の強い干渉を受けてきたナイル系社会に焦点を合わせ、国民性が内蔵する排除性への対応・対抗策として新たなシティズンシップが創出される過程を解明する。具体的には、国家包摂と新自由主義世界の進展におけるポストコロニアル・ポリティクスを背景として、儀礼の活用によって地位が確立される土着民性、民族・国家の境界を横断する生態学的シティズンシップなどの地域に根ざしたシティズンシップがどのように生み出されるか、その象徴と実践の過程を解明する。

トランスナショナル・シティズンシップ：

コンゴ民主共和国から移住してくる移民・難民に焦点を合わせ、移動の過程とその背景にある理由（紛争、儀礼、交易など）を、トランスナショナル化の過程とでの生活の現場から重層的にとらえ、言説の構築作用の次元を超え、人びとの生活世界の実践の総体を抉り出す。具体的には、小集団における互酬性、移動ルートでの交換、諸共同体における連帯の事例にもとづいて、国境横断的な、さまざまな程度に制度化された個人、ネットワーク、組織の持続的紐帯を分析し、ハイブリッドな自己制定と国際移動を統合する生活論理モデルを描出する。

グローバル・シティズンシップ：

都市の周縁世界を中心に進展している、グローバルとローカルの通訳プロセスを解明する。アチオリ社会からの都市への国内避難民、またガンダ社会への難民が、都市開発プロジェクトやNGOの主導する市民運動に対応するさい、そのローカルな接続場において、グローバルな言説におけるポリティカル・シティズンシップを主張・運用・拡張してきた文脈を明らかにする。

各調査班ともフィールドデータの収集を目的とした現地調査を実施し、参与観察、ライフヒストリーの採集、関連文献資料の収集と分析をおこなう。

4. 研究成果

全研究期間を通して、地域研究班、移民調査班、都市調査班とも現地調査を実施し、アフリカの非定住生活者および移民社会における流動的でフレキシブルなシティズンシップの実践にかんする事例を記録した。アフリカン・シティズンシップの三層の位相の接合に焦点を合わせた調査資料との比較検討にもとづいて、西洋近代に由来するシティズンシップ・モデルの限定性を帰納的に明らかにした研究成果は、国内外の学会およびシンポジウム等での口頭発表、論集、研究論文として精力的に発表した。

学術の国際的な展開において一定のインパクトをもつと思われる主な実績としては、以下が挙げられる。

(1) JSPS 二国間交流事業南アフリカ (NRF) との共同研究「21世紀の南アフリカと日本におけるシティズンシップ」の南ア側代表者であるフランシス・B・ニャムンジョ教授と他3名を招へいし、7月に四天王寺大学あべのハルカスカンパスにて国際ワークショップ Toward the citizenship of twenty-first century in South Africa and Japan を開催し、公開で議論をおこなった。日本と南アフリカにおける人口移動、宗教実践、土地紛争、抵抗文化の生成の事例をもとに、フレキシブルなシティズンシップの理念を実現していく条件をめぐる活発な議論が繰り広げられた。

(2) 国際ワークショップ Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing “Citizenship” in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies をケープタウン大学にて開催し、死者のエージェンシーの概念化の可能性（梅屋）、市民と人間・人道主義の再考（榎本）、東アフリカ牧畜民社会における牧畜シティズンシップの実践（波佐間）、多民族・多国籍共同体における無数の人々のシティズンシップ（田原）、カンパラのバーガールのシティズンシップとその『主体性』への再考（森口：連携研究者）について口頭発表と議論をおこなった。

(3) ウガンダ 日本合同国際ワークショップ Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of “Citizenship” and “Humanitarianism” をマケレレ大学キルミラ教授の協力のもとカンパラにて開催、各自研究報告をおこなった。報告を受けて松田、キルミラ博士、ニャムンジョ博士らがコメントし、総合討論において東アフリカのシティズンシップの新空間に向けての創造的関与を議論した。

(4) 日本文化人類学会の機関紙『文化人類学』にて、「特集：東アフリカのシティズンシップ」を組み、研究組織の全メンバーが研究成果を発表した。特集では、近代西欧に由来する「グローバル・スタンダード」によって植民地期から植民地期以降まで政治、社会、文化の諸側面で壊滅的被害をこうむりつづけてきた東アフリカが、近代の外圧にさらされ、影響を受けつつも独自に創造してきた政治的共同体のための知恵と実践を「アフリカン・シティズンシップ」として析出し、「アフリカン・シティズンシップ」が持つ特質を今後の現代世界における共存基盤としての可能性という点から検討することである。具体的事例として、特にウガンダの周縁化された遊牧民（東ナイル系ドドス (Dodoth)）と、もともと歴史的には遊牧民だった民族（アチオリ (Acholi)）、アルル (Alur)、アドラ (Jopadhola) など）を主な民族誌的事例とし、また、表面的には多様な民族を包摂し、こうした民族性が一見無意味化されているかに見える現代都市における事例を

比較参照点にして、近代市民社会における シティズン 観(シティズンシップ=人間像)にとられず、かれらおよび国内外の他者と、ウガンダの国民国家との複雑な相互関係を検討した。シティズンシップの運用における柔軟性と確定性という観点からとらえながら、社会空間としての市民圏の構築・主張・運用・変形などの創造性に注目し、近代ヨーロッパ型共和主義 多文化主義シティズンシップ・モデルを乗り越えるアフリカン・シティズンシップのありようを提示した。

(5)本科研および JSPS 二国間交流事業南アフリカ(NRF)との共同研究「21世紀の南アフリカと日本におけるシティズンシップ」を通して得た研究成果を“Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation”(Hazama, Umeyama, Nyamnjoh 編集)として学術論集にまとめ Langaa 出版から出版した。メンバーは各調査班の総括として、ローカル・シティズンシップ、トランスナショナル・シティズンシップ、グローバル・シティズンシップに関するモノグラフを執筆した。

本研究の目標である、「ヨーロッパに由来する旧来のシティズンシップ・モデルの排除/包摂にまつわる限定性を批判的に検討し、社会的背景を踏まえ、各調査班のタスクに即してアフリカン・シティズンシップを構想する」「近代ヨーロッパ型共和主義 多文化主義を貫いているシティズンシップの考え方を超え、生活協働と相互扶助、対話・相互理解の可能性にむかって開かれている人間像としての「アフリカン・シティズンシップ」を探究する」という課題は十分に達成することができた。

とくに本研究の現地調査から見出された、一見対立すると思われる諸要素に折り合いをつける人々の技法を、異種結節現地化(Currency localisation)と名づけた[Currency は研究協力者でもある社会人類学者 Francis Nyamnjoh[2017]が提起した概念] この概念は移動と定住、生業経済と市場経済、伝統と現代、感情的なもの合理的なもの、共感に基づく真理と物的証拠に基づく真理の一見対立すると思われる諸要素を、前者から後者への一方向的な移行過程として捉えるのではなく、両者が交渉することによって生じたグローバルな領域とローカルな領域を双方向的に往還しつつ問題解決に取り組む能力を更新する物質 記号的連関として定義される。

私たちが含む 21 世紀の地球に生きる シティズン にとって、いままでの シティズン やその他の集団化・差異化・組織化の方法とは異なった種類の分断と差異化への可能性に開かれた視角の獲得が切実であり急務だという本科研の問題意識の視角は、状況に応じて柔軟な、近代を含む相対的な外部・異質な他者との交渉・折衝を可能にするものでなくてはならない。地球上のどの シティズン にとっても状況は同じである。「アフリカン・シティズンシップ」への理解のまなざしは、わずかではあっても、その問題解決の道筋をつけることに貢献するひとつの方法となりうると考えている。ことの語源的な背景からして、シティズンシップを研究することは、ひいてはつねに政治的である共同体(それが何を意味するにせよ)において他者と生きる方法を学ぶことであるはずだからである。本研究でとりあげた共同体や個人による能動的で創造的な駆け引きや接合、排除や包摂の民族誌的事例から、近代世界システムや国民国家といった西洋由来のマクロな抽象的支配原理にもとづくシティズンシップの概念を変質させる「下からのシティズンシップ」への光芒を見出すことができるだろう。

現地調査に基づく事例分析と成果公開のフィードバックにより開けてきた新しい問いも本研究の成果の重要な柱だろう。以下に記しておこう。

1) 難民支援ギャップをいかにして克服するのか :

ウガンダ社会における難民・国内避難民を含む遊動民のシティズンシップの動態を現地調査によって究明した前研究課題において浮上した第一の問いは、国家主義的なシティズンシップ・モデルをいかにして克服するかという問題であった。南スーダン難民評議会の議長と国際 NGO ローカルスタッフを招いて実施したカンパラでの国際ワークショップとフォローアップで発見したのは遊動民自身の自立と尊厳による回復・復権の過程に他ならず、国民国家をシティズンシップの唯一の付与主体とみなす規範を相対化して、難民自身が主導する地域組織やインフォーマル・ネットワーク(Refugee-led Organisation: RLO)による社会的保護を正当に評価し、RLOの実践と論理を機軸とする難民支援と開発援助のギャップの解消方法を明示するという新課題が浮上した。

2) 現地化概念をいかにしてウガンダ社会に対応させることができるか :

前研究課題が導いた第二の問いは 2016 年の世界人道サミットを端緒とする現地化(localise) ターン以降、現地化を通じての難民支援の正当性・有効性の確保が言説化されたことと関わる [Van Brabant & Patel 2017]。批判的現地主義に基づく平和研究を起点とする現地化の概念を経済人類学、国際社会学、国際関係論、公衆衛生等の観点から比較検討し、人道支援と開発援助のギャップを克服できる難民援護概念へ刷新するにはどうしたら良いかという問いが浮上した。

3) 長期化難民状況(PRS)に立脚した支援・開発モデルをいかにして構築できるか :

前研究課題による第三の問いはアフリカの PRS における援護モデルに関わる。アフリカの難民問題では場所への定住を安定とみなす形而上学を継承し、過渡性モデルに基づくケアを中心課題とする救済型難民保護レジームが存続し、登録と人口調査を重視する国家主義イデオロギーと親和的な施策[Escobar 2011; Ferguson 1990; Scott 1998]が PRS に適用されてきた。そこ

で前述の現地化概念の再検討により、RLO の内在的論理に基づく援護モデルをいかにして構築できるかという新たな問いが浮上した。

遊動民を対象とした本研究課題から絞り込みを行い、移動性とリスクの高い都市及び農村の難民を含む長期化難民を対象とし、異種結節現地化 (Currency localisation) の理論的彫琢と難民援護を接合するという新たな研究課題が浮上したとあってよい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 27件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 38件）

1. 著者名 波佐間逸博	4. 巻 6
2. 論文標題 レジリエントなアフリカ遊牧社会のマイクロ・エスノグラフィー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』	6. 最初と最後の頁 339-372
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 波佐間逸博	4. 巻 6
2. 論文標題 アフリカのレジリエンス：現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』	6. 最初と最後の頁 291-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SAGAWA, Toru; HAZAMA, Itsuhiro	4. 巻 40(2-3)
2. 論文標題 Naturalography of Co-Existence among East African Pastoral Societies: An Introductory Overview of Japanese Scholarship	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs	6. 最初と最後の頁 45-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/244850	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 波佐間逸博	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 エスニシティの異化効果－東アフリカ牧畜民カリモジョン・クラスターのレイディングと助命	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『地域研究』	6. 最初と最後の頁 139-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 52
2. 論文標題 What is the Source of Power?: A Case of the Evangelized Witch in Eastern Uganda	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際文化学研究』	6. 最初と最後の頁 29-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 UMEYA, Kiyoshi	4. 巻 120
2. 論文標題 The Gospel Sounds like the Witches' Spell: Ethnographic Accounts of Jopadhola, Eastern Uganda	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『近代』	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 6
2. 論文標題 アパルトヘイトとゼノフォビアのレジリエンス 南アフリカのウーバー・ビジネスに見るエスニシティとシティズンシップ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』	6. 最初と最後の頁 317-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 25
2. 論文標題 イギリス公文書館の機密文書FC031 ウガンダ元大統領代行、故オボス=オフンピの遺品 ()	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人間情報学研究』	6. 最初と最後の頁 11-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田原 範子	4. 巻 6
2. 論文標題 病気をめぐるレジリエンス ガーナ・アサンテのアスラムという病気を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』	6. 最初と最後の頁 295-316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎本 珠良	4. 巻 6
2. 論文標題 『レジリエンス』概念の拡散とアフリカ研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』	6. 最初と最後の頁 373-392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ENOMOTO, Tamara	4. 巻 8
2. 論文標題 History of Arms Transfer Control and Challenges Facing the Arms Trade Treaty	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国際武器移転史』	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MATSUDA, Motoji	4. 巻 9, Supplement 2
2. 論文標題 Legitimacy in Conviviality? Learning from Legitimacy: Ethnographic and Theoretical Insights	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 URBANITIES Journal of Urban Ethnography	6. 最初と最後の頁 83-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森口岳	4. 巻 6
2. 論文標題 臣民か、市民か：東アフリカの社会開発をめぐるレジリエンスとレジスタンス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『多文化社会研究』	6. 最初と最後の頁 393-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋 潔、波佐間 逸博	4. 巻 83
2. 論文標題 序 東アフリカにおけるシティズンシップ研究に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 166 ~ 179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 波佐間逸博 (訳) フランシス・B・ニャムンジョ	4. 巻 83
2. 論文標題 21世紀のアフリカにおけるシティズンシップの再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 180 ~ 192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_180	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎本 珠良	4. 巻 83
2. 論文標題 「グローバル市民社会」から切り離されたエージェンシー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 193 ~ 212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森口 岳	4. 巻 83
2. 論文標題 女たちは踊ることができるか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 213 ~ 232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田原 範子	4. 巻 83
2. 論文標題 死者祈念儀礼をとおして生起する共同性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 233 ~ 255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 波佐間 逸博	4. 巻 83
2. 論文標題 北東ウガンダ牧畜民の抵抗におけるシティズンシップの実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 256 ~ 273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋 潔	4. 巻 83
2. 論文標題 「大主教殺害事件」の被害者の「再埋葬」と記念儀礼	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 274 ~ 284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_274	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Itsuhiko Hazama	4. 巻 6
2. 論文標題 Ugandan Pastoralists' Everyday Histories of Gun Acquisition and State Violence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際武器移転史	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎本珠良	4. 巻 196
2. 論文標題 武器貿易条約 (ATT) の形成と実施における「市民」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 InterJurist	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itsuhiko HAZAMA	4. 巻 56
2. 論文標題 Potentials of African Pastoralism: Practice of Citizenship for Livelihood in East African Pastoral Society	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African Study Monographs. Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/230173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 1120
2. 論文標題 「「見えない世界」と交渉する作法 アフリカのウィッチクラフトと、フランシス・B・ニャムンジョの思想」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 86-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔 (翻訳) フランシス・B・ニヤムンジョ	4. 巻 1120
2. 論文標題 「開発というまぼろしが、ウィッチクラフトの噂を広げているのだ カメルーンの事例を中心として」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 99-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 117
2. 論文標題 ジャジュウォキ(jajwok) : ウガンダ東部パドラにおけるナイト・ダンサー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『近代』	6. 最初と最後の頁 1-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 23
2. 論文標題 ウガンダ東部パドラにおけるラムlamの観念	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『人間情報学研究』	6. 最初と最後の頁 37-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriko TAHARA	4. 巻 56
2. 論文標題 Mobility as Emancipation: Viewing People on the Move in Uganda through the Dwelling Perspective	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African Study Monographs. Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 53-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/230174	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noriko TAHARA	4. 巻 12
2. 論文標題 療養所も人間の生きる社会 ; 滝田十和男さんのライフヒストリー(1)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『四天王寺大学大学院研究論集』	6. 最初と最後の頁 49-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Motoji MATSUDA	4. 巻 -
2. 論文標題 A Genesis of Street Communitary: With Special Reference to the Political Culture of Street Violence in Nairobi	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Diogenes(Online)	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0392192117740035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 榎本珠良	4. 巻 55
2. 論文標題 西欧近代とアフリカ: 非国家主体への武器移転規制の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『アフリカレポート』	6. 最初と最後の頁 116-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森口岳	4. 巻 21
2. 論文標題 都市の政治学: 2007~2011年のウガンダ共和国首都カンパラでの三つの暴動を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際地域学研究』	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 波佐間逸博	4. 巻 90
2. 論文標題 ウガンダ北東部の牧畜民ドス社会における生と死をめぐる高齢女性の役割	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HAZAMA, Itsuhiro	4. 巻 Supplementary Issue 53
2. 論文標題 Violence and Medical Pluralism among the Karimojong and the Dodoth in Northeastern Uganda	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 African Study Monographs	6. 最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/218914	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 46
2. 論文標題 ウガンダ東部バドラにおけるトウオtuwoの観念 病いのカテゴリー-88とその処方	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 115
2. 論文標題 「伝統」を逆照射する ウガンダ東部バドラにおける聖霊派キリスト教会の指導者たち	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 近代	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔・土取俊輝・相澤卓郎・庄司幸男	4. 巻 7
2. 論文標題 気仙沼市における無形民俗文化財の調査記録()	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域構想学研究教育報告	6. 最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 47
2. 論文標題 ウガンダ東部パドラにおける「災因論」の民族誌 死霊と憑依、毒そして呪詛の観念()	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 25-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅屋潔	4. 巻 22
2. 論文標題 ウガンダ東部パドラにおけるティポtipoの観念	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間情報学研究	6. 最初と最後の頁 25-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MATSUDA, Motoji	4. 巻 24
2. 論文標題 Creativity of Narrative of Suffering of the Korean A-Bomb Survivors: How Reconciliation and Redress could be achieved?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都社会学年報	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 TAHARA, Noriko	4. 巻 63
2. 論文標題 Alternation of Munziri Light Fishing in Lake Albert, Uganda: From Livelihood to Labour	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Bulletin of Shitennoji University	6. 最初と最後の頁 393-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Enomoto, Tamara	4. 巻 3
2. 論文標題 Controlling Arms Transfers to Non-State Actors: From the Emergence of the Sovereign-State System to the Present	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 History of Global Arms Transfer	6. 最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計64件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 36件)

1. 発表者名 HAZAMA, Itsuhiro
2. 発表標題 Citizenship Practices in the Resistance
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress "World Solidarities" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HAZAMA, Itsuhiro
2. 発表標題 Appearance of Alterity: Citizenship Practices in the Resistance of Northeastern Ugandan Pastoralists
3. 学会等名 International Workshop Resonation of Alterity: Way of Coexistence in Pastoral Society in East Africa (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 波佐間逸博
2. 発表標題 ひとと動物のあいだのシティズンシップ 東アフリカ・ナイル系カリモジョンクラスターの共振する他性
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンスー現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 HAZAMA, Itsuhiro
2. 発表標題 Citizenship Practice in the Resilience
3. 学会等名 International Workshop Thinking Resilience and Development from the “Exceptional” Africa (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梅屋潔
2. 発表標題 アパルトヘイトとゼノフォビアのレジリエンス 南アフリカのウーバー・ビジネスに見るエスニシティとシティズンシップ
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンスー現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田原範子
2. 発表標題 ウガンダ・西ナイル地域・アルル人における死と儀礼 リチュアル・シティズンシップの可能性
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンスー現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎本珠良
2. 発表標題 「レジリエンス」をめぐる批判論の検討
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンスー現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 人類の未来とアフリカの潜在力-集会的創造性の可能性
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンスー現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカの知恵が世界を救う
3. 学会等名 アフリカセミナーの会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口岳
2. 発表標題 臣民か、市民か 東アフリカの社会開発をめぐるレジリエンスとレジスタンス
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部シンポジウム「アフリカのレジリエンスー現代社会の困難を克服する創造性とフィールドワーク主義」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森口岳
2. 発表標題 家族の政治学 ウガンダのスラムの一家族を事例に、ケアと葛藤をめぐって
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会「心配と係り合いについての人類学的探求」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカ研究・文化人類学の視点から
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森口岳
2. 発表標題 王国と共和国(2) ウガンダの1986年以前と以後の地方政治体制について
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 波佐間逸博
2. 発表標題 コメント ハンセン病患者・回復者の実践と共生 victimhoodを超えるcitizenshipの構築
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田原範子、金貴粉、 桜井真理子、山本須美子
2. 発表標題 分科会 ハンセン病患者・回復者の実践と共生 victimhoodを超えるcitizenshipの構築
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田原範子
2. 発表標題 隔離を超えるモビリティ 逃亡・脱走、旅、文芸活動
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎本珠良
2. 発表標題 武器貿易条約（ATT）第4回締約国会議に向けて：議長国日本の政府と市民の役割を考える
3. 学会等名 NAJAT講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 アフリカにおける適用とモデル修正の試み
3. 学会等名 国際文化学会第17回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itsuhiro Hazama
2. 発表標題 Opening Remarks & Introductory Lecture
3. 学会等名 Workshop "Citizenship in Motion in the 21st Century: Conversations between Japanese and South African Scholars" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎本珠良
2. 発表標題 軍備管理に関する国際交渉における市民社会
3. 学会等名 防衛研究所エマージングテクノロジー研究会「新興技術(AI・ロボット)の実用化に伴う倫理・法制・社会的課題」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuda, Motoji
2. 発表標題 Chair, Indigenous Studies at the Crossroads of Globalization and Settler Colonialism
3. 学会等名 The 4th World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuda, Motoji
2. 発表標題 New Universalities and African Potentials: Alternative Methods for Addressing Human Security
3. 学会等名 The 4th World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itsuhiro Hazama
2. 発表標題 Practice of Citizenship in the Resistance of Northeastern Ugandan Pastoralists
3. 学会等名 Citizenship in the 21st Century: South Africa and Japan Writing Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyoshi Umeya
2. 発表標題 Reflexive Accounts on Uganda General Election 2016: The Agency of the Dead and Its Effect among Western Nilotes
3. 学会等名 Citizenship in the 21st Century: South Africa and Japan Writing Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noriko Tahara
2. 発表標題 Cooperativeness arising through memorial rituals for the dead: ritual citizenship among the Alur of the Republic of Uganda
3. 学会等名 Citizenship in the 21st Century: South Africa and Japan Writing Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tamara Enomoto
2. 発表標題 Agency Detached from Global Civil Society: The Case of the Acholi Region of Northern Uganda
3. 学会等名 Citizenship in the 21st Century: South Africa and Japan Writing Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Gaku Moriguchi
2. 発表標題 In and Out of Family: Family Affairs and Deep-play at Night Clubs in Kampala, Uganda
3. 学会等名 Citizenship in the 21st Century: South Africa and Japan Writing Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tamara Enomoto
2. 発表標題 Africa and the West: Norms and Measures for Arms Transfers to Non-State Actors (NSAs)
3. 学会等名 African Potentials 2019: International Symposium on African Potentials and the Future of Humanity (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itsuhiko HAZAMA
2. 発表標題 Arms availability and violence among the Karimojong and Dodoth in North Eastern Uganda
3. 学会等名 International Seminar "Relationships between Arms Availability and Violence" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Itsuhiko HAZAMA
2. 発表標題 Naturalography of the entanglement between East African pastoral citizenship and everyday forms of animal resistance
3. 学会等名 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyoshi UMEYA
2. 発表標題 Possibility of the conceptualization of 'agency of the dead': An analysis based on the dialogue of autochthony between Japan and Africa
3. 学会等名 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriko TAHARA
2. 発表標題 Citizenship of un-counted people in a multi-ethnic and trans-national community along the shore of lake Albert in Uganda
3. 学会等名 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tamara ENOMOTO
2. 発表標題 Rethinking humanity, citizenship and humanitarianism: The case of the Acholi region of Uganda
3. 学会等名 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gaku MORIGUCHI
2. 発表標題 Dance, Pool and the Deep Play: Games and Citizenships of Bar-girls at Night-clubs in Kampala from Anthropological Perspectives
3. 学会等名 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyoshi UMEYA
2. 発表標題 Feasts to Send-off the Dead: with Special Reference to the Jopadhola of Eastern Uganda.
3. 学会等名 Feast as a Mirror of Social and Cultural Changes: An International Interdisciplinary Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyoshi UMEYA
2. 発表標題 Voting, Citizenship and Ethnicity: A Case of Ugandan General Election, 2016.
3. 学会等名 Seminar for JSPS Core-to-Core Program (A: Advanced Research Networks) Japan-Asia-Europe Comparative Symposium on Migration, Multiculturalization and Welfare in Naples 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梅屋潔、マイケル・オロカ=オボ
2. 発表標題 Witchcraft and Curse in Padhola (「パドラにおけるウィッチクラフトと呪詛 決して保護されることのない伝統的無形文化」)
3. 学会等名 現代民俗学会第38回研究会 東アフリカ・ウガンダのフォークロアと文化遺産 文化遺産として承認されるフォークロア / 承認されないフォークロア
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 榎本珠良
2. 発表標題 非国家主体 (NSAs) への武器移転問題と国家主権
3. 学会等名 日本国際政治学会2017 年度研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Itsuhiko HAZAMA
2. 発表標題 Citizenship in East Africa: Creative Engagement for New Space
3. 学会等名 Uganda - Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Itsuhiko HAZAMA
2. 発表標題 "Peace Can Begin in the Clinic": Health Diplomacy Reconsidered in the Karamoja Sub-Region
3. 学会等名 Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of "Citizenship" and "Humanitarianism" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyoshi UMEYA
2. 発表標題 Re-burial of prominent Luo people and the 2016 Ugandan General Election
3. 学会等名 Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of "Citizenship" and "Humanitarianism" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriko TAHARA
2. 発表標題 What happened after the ritual of 'Myel Agwara': the deaths that occurred in G village in Uganda
3. 学会等名 Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of "Citizenship" and "Humanitarianism" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tamara ENOMOTO
2. 発表標題 Humanity and citizenship reconsidered: The case of the Acholi
3. 学会等名 Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of "Citizenship" and "Humanitarianism" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gaku MORIGUCHI
2. 発表標題 In and out of family as citizenship: sexuality of Kampala bar-girls and their social Inclusion and exclusion
3. 学会等名 Japan Joint International Workshop in Kampala, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of "Citizenship" and "Humanitarianism" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Itsuhiro HAZAMA
2. 発表標題 Toward the citizenship of twenty-first century in South Africa and Japan
3. 学会等名 「21世紀の南アフリカと日本におけるシティズンシップ」 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyoshi UMEYA
2. 発表標題 Citizenship including the dead, ancestors and gods: Some clues of discussion from nothern villages in Sado island
3. 学会等名 「21世紀の南アフリカと日本におけるシティズンシップ」 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森口岳
2. 発表標題 「王国」と「共和国」 ウガンダにおける分枝的な「国家的なるもの」への考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会 分科会「国家形成につながるいの<試み>：アフリカにおけるstatehood をめぐる政治学・人類学」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Itsuhiro HAZAMA
2. 発表標題 Politics of Movement and Co-existence Logic: East African Pastoral Coping with State's Sedentarizaion Policy among the Karimojong and Dodoth in northeastern Uganda
3. 学会等名 CASCA/IUAES2017 A Joint CASCA/IUAES Conference in Ottawa, Panel: RE-ERB07 People on the Move in Sub-Sahara Africa (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyoshi UMEYA
2. 発表標題 Mobility and its rudiment: some religious concepts of Nilotes.
3. 学会等名 CASCA/IUAES2017 A Joint CASCA/IUAES Conference in Ottawa, Panel: RE-ERB07 People on the Move in Sub-Sahara Africa (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriko TAHARA
2. 発表標題 The Creation of Mobility: Viewing People on the Move in Uganda through the 'Taskscape Perspective'
3. 学会等名 CASCA/IUAES2017 A Joint CASCA/IUAES Conference in Ottawa, Panel: RE-ERB07 People on the Move in Sub-Sahara Africa (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motoji MATSUDA
2. 発表標題 Opening Remarks
3. 学会等名 the 7th African Potentials Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 波佐間逸博
2. 発表標題 東アフリカ牧畜民ドスにおける家畜の交換性
3. 学会等名 日本文化人類学会第50回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 波佐間逸博
2. 発表標題 紛争後のウガンダ・ナイル系牧畜社会における創造的ヘルスケア・ローカリティ
3. 学会等名 日本アフリカ学会第53回学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 波佐間逸博
2. 発表標題 東アフリカ牧畜社会におけるエスニシティの流動性と生業牧畜の関連
3. 学会等名 「牧畜社会におけるエスニシティとエコロジーの相関」第3回研究会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 波佐間逸博
2. 発表標題 東アフリカ牧畜社会におけるオルタナティブ・シティズンシップ
3. 学会等名 科研基盤 (S)「アフリカ潜在力」と現代世界の困難克服：人類の未来を展望する総合的地域研究 2016年度 11月全体会議（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 HAZAMA, Itsuhiro
2. 発表標題 Strategies for non-violence: Imagination and embodiment among the Dodoth in northeastern Uganda
3. 学会等名 115th AAA(American Anthropological Association) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 HAZAMA, Itsuhiro
2. 発表標題 Alternative Citizenship in East African Pastoral Societies
3. 学会等名 6th African Forum: Kampala Comprehensive Area Studies 'African Potentials' to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 梅屋潔
2. 発表標題 福音を説くウィッチ ウガンダ東部アドラのニュー・シティズンシップの記録
3. 学会等名 科研費基盤研究 (B)「アフリカン・シティズンシップの解明 ウガンダ社会の動態とシティズンシップの関連性」第1回研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 梅屋 潔
2. 発表標題 人類学的関心と思想のクロスロード アニミズム、存在論、そしてエージェンシー
3. 学会等名 「文化とパーソナリティ 心理学 その境界を越えて」日本パーソナリティ心理学会第25回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松田 素二
2. 発表標題 抵抗論の現在
3. 学会等名 日本文化人類学会次世代育成セミナー東日本会場（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 MATSUDA, Motoji
2. 発表標題 Opening Remarks from the President
3. 学会等名 6th African Forum: Kampala Comprehensive Area Studies 'African Potentials' to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 TAHARA, Noriko
2. 発表標題 The Creation of Mobility: Viewing People on the Move in Uganda through the 'Taskscape Perspective'
3. 学会等名 6th African Forum: Kampala Comprehensive Area Studies 'African Potentials' to Develop Alternative Methods of Addressing Global Issues (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Enomoto, Tamara
2. 発表標題 Controlling Arms Transfers to Non-State Actors: From the 19th Century to the Present
3. 学会等名 International Workshop “Arms Transfer, Regional Conflicts, and Refugee Crisis in the Balkans and Middle East”
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 榎本珠良
2. 発表標題 非国家主体への武器移転問題と国家主権：アフリカに着目して
3. 学会等名 「アフリカ潜在力」プロジェクト国家・市民班研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計31件

1. 著者名 Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh (eds.) Anye-Nkwenti Nyamnjoh, Claire-Anne Lester, Ayanda Manqoyi, Tamara Enomoto, Toshiki Tsuchitori, Noriko Tahara, Gaku Moriguchi, Olivia Joanes, Kongo Minga Mbweck, Zuziwe Nokwanda Msomi, Msakha Mona, Marlon Swai, Harry Garuba	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442
3. 書名 Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	

1. 著者名 Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya and Francis B. Nyamnjoh	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442(1-35)
3. 書名 Introduction: Flexible Citizenship in the 21st Century Africa. In (Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh eds.) Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	

1. 著者名 Itsuhiro Hazama	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442(121-147)
3. 書名 Citizenship Practices in the Resistance of North-eastern Ugandan Pastoralists. In (Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh eds.) Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	

1. 著者名 和崎春日、有末賢、谷部真吾、阿南透、矢島妙子、中野紀和、佐々木重洋、山田慎也、小林奈央子、市田雅崇、濱千代早由美、中山和久、浅川宏、近藤功行、織田竜也、塩月亮子、宮坂清、猿渡土貴、藤野陽平、東賢太朗、奈倉京子、長坂康代、古賀万由里、塚本紀之、細谷幸子、禪野美帆、本谷裕子、松田さおり、木村葉子、竹中宏子、梅屋潔、他11名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 779
3. 書名 『響き合うフィールド、躍動する世界』	

1. 著者名 Kiyoshi Umeya	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442(149-167)
3. 書名 Uganda General Election 2016: The Agency of the Dead and Its Effect among Western Nilotes. In (Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh eds.) Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	

1. 著者名 Noriko Tahara	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442(187-216)
3. 書名 Creation of Cooperativity through Memorial Rituals for the Dead: Ritual Citizenship among the Alur in the Republic of Uganda. In (Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh eds.) Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	

1. 著者名 Tamara Enomoto	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442(87-118)
3. 書名 Demarcating Battle Lines: Citizenship and Agency in the Era of Misanthropy. In (Itsuhiro Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh eds.) Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	

1. 著者名 榎本珠良	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 258
3. 書名 『武器貿易条約：人間・国家主権・武器移転規制』	

1. 著者名 榎本珠良、ミロシュ・ヴェッツ、松永友有、小谷賢、イド・オレン、タイ・ソロモン、ミシェル・ベントリー、岩本誠吾、福田毅、竹内真人、山下雄二、佐藤丙午、森山隆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 418
3. 書名 禁忌の兵器：パーリア・ウェポンの系譜学	

1. 著者名 Ofosu-Kusi, Yaw. and Matsuda, Motoji. eds.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 276
3. 書名 The Challenge of African Potentials: Conviviality, Informality and Futurity	

1. 著者名 Gaku Moriguchi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 442()
3. 書名 In and Out of Family: Family Affairs and Deep Play at Nightclubs in Kampala, Uganda. In (Itsuhiko Hazama, Kiyoshi Umeya, Francis B. Nyamnjoh eds.) Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation	
1. 著者名 太田至、曾我亨、北村光二、内藤直樹、杉山祐子、湖中真哉、波佐間逸博、河合香吏、佐川徹、川口博 子、目黒紀夫、中村香子、孫曉剛、泉直亮、楠和樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 400
3. 書名 遊牧の思想	
1. 著者名 川田 牧人、白川 千尋、関 一敏、飯國有佳子、飯田淳子、梅屋潔、大橋由美、片岡樹、黒川正剛、近藤 英俊、津村文彦、村上忠良	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 呪者の肖像	
1. 著者名 宮本 正興、松田 素二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 784
3. 書名 改訂新版 新書アフリカ史	

1. 著者名 福井 憲彦、杉山 正明、大塚 柳太郎、応地 利明、森本 公誠、松田 素二、朝尾 直弘、青柳 正規、陣内 秀信、ロナルド・トビ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 416
3. 書名 興亡の世界史 人類はどこへ行くのか	

1. 著者名 田中 雅一、松嶋 健、小田博志、酒井朋子、三田牧、青木恵理子、マヤ・カハノフ、中屋敷千尋、窪田幸子、富田暁、岡田浩樹、北岡一弘、武田龍樹、吉田尚史、アナ・カーデン=コイン、野村亜矢香、藤原久仁子、中村平、松田素二、福浦厚子、ニコラ・タジャン、兼清順子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 598
3. 書名 トラウマを共有する	

1. 著者名 今井一郎、中村亮、田原範子、田村卓也、古澤礼太、伊藤千尋、藤本麻里子、大石高典、萩原幹子、山田孝子、中川千草	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 316
3. 書名 アフリカ漁民文化論 水域環境保全の視座	

1. 著者名 波佐間逸博、湖中真哉、太田至、孫暁剛、望月良憲、メスフィン・メテキア・タフェセ、内海成治、村橋 勲、サダ・マイヤー、島田剛、本村美紀、村尾るみこ、松浦直毅、サヴェリオ・クラトゥリ	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 320頁
3. 書名 『地域研究からみた人道支援 - アフリカ遊牧民の現場から問い直す』	

1. 著者名 波佐間逸博、秋道智彌、フィリップ・デスコラ、池田光穂、山田仁史、オギュスタン・ベルク、吉田憲司、下山大助	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 442頁
3. 書名 『交錯する世界 自然と文化の脱構築 フィリップ・デスコラとの対話』	

1. 著者名 梅屋潔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 760頁
3. 書名 『福音を説くウィッチ ウガンダ・パドラにおける「災因論」の民族誌』	

1. 著者名 松田素二、渡辺公三、石田智恵、富田敬大、中倉智徳、田中壮泰、田中雅一、森下直紀、小杉麻李亜、西成彦、ポール・デュムシエル、松田有紀子、永田貴聖、川瀬慈、真島一郎、澤田昌人、小泉義之、近藤宏、マルセル・エナフ、フレデリック・ケック、島亨	4. 発行年 2017年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 643頁
3. 書名 『異貌の同時代 人類・学・の外へ』	

1. 著者名 Italo Pardo, Giuliana B. Prato, Moshe Shokeid, Jerome Krase, Janaki Abraham, James Rosbrook-Thompson, Gary Armstrong, Timothy Shortell, Fran Markowitz, Manos Spyridakis, Judy Arnold, Judith N. DeSena, Florence Graezer Bideau, Dolores Koenig, Michel Rautenberg, Iain Lindsay, Kamel Labdouni, Lucy Koechlin	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 575頁
3. 書名 The Palgrave Handbook of Urban Ethnography	

1. 著者名 HAZAMA, Itsuhiro	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 255 (108-133)
3. 書名 Social Body and Conflict: Illness and Non-Violence among the Karimojong and Dodoth in North Eastern Uganda. In Bianca Maria Pirani and Thomas S. Smith (eds.), "Embodiment and Cultural Differences"	

1. 著者名 梅屋潔・シンジルト 編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学陽書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 『新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発』	

1. 著者名 梅屋潔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学陽書房	5. 総ページ数 312 (25-49)
3. 書名 「フィールドワークと文化人類学 「民族誌する」とはどういうことか？」梅屋潔・シンジルト 編著 『新版文化人類学のレッスン フィールドからの出発』	

1. 著者名 梅屋潔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学陽書房	5. 総ページ数 312 (263-287)
3. 書名 「グローバルイシューと周辺社会 人類学は、社会の「役に立つ」か？」梅屋潔・シンジルト 編著 『新版文化人類学のレッスン フィールドからの出発』	

1. 著者名 Yntiso Gebre, Itaru Ohta and Motoji Matsuda (eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Langaa	5. 総ページ数 432
3. 書名 "African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions"	

1. 著者名 Gebre Yntiso, Itaru Ohta and Motoji Matsuda	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Langaa	5. 総ページ数 432 (3-37)
3. 書名 Introduction: Achieving Peace and Coexistence through African Potentials. Yntiso Gebre, Itaru Ohta and Motoji Matsuda (eds.), "African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions"	

1. 著者名 Motoji Matsuda	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Langaa	5. 総ページ数 432 (275-308)
3. 書名 Everyday Knowledge and Practices to Prevent Conflict: How Community Policing domesticated in Contemporary Kenya. Yntiso Gebre, Itaru Ohta and Motoji Matsuda (eds.), "African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions"	

1. 著者名 田原 範子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 251 (213-234)
3. 書名 「国際社会学 トランスナショナルな想像力を鍛えよう」大関雅弘編 『現代社会への多様な眼差し』	

1. 著者名 榎本珠良編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 312
3. 書名 『国際政治史における軍縮と軍備管理：19世紀から現代まで』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Citizenship in the 21th Century http://voa.sakura.ne.jp/southafrica/index.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松田 素二 (MATSUDA Motoji) (50173852)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	榎本 珠良 (ENOMOTO Tamara) (50770947)	明治大学・研究・知財戦略機構・特任教授 (32682)	
研究分担者	田原 範子 (TAHARA Noriko) (70310711)	四天王寺大学・人文社会学部・教授 (34420)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	梅屋 潔 (UMEYA Kiyoshi) (80405894)	神戸大学・国際文化科学研究科・教授 (14501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	森口 岳 (MORIGUCHI Gaku)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Workshop "Citizenship in Motion in the 21st Century: Conversations between Japanese and South African Scholars"	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Citizenship in the 21st Century: South Africa and Japan Writing Workshop	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Uganda-Japan Joint International Workshop, Situating Universal Concepts to the Reality of Marginalized African Nomads: A Challenge for Area Studies of "Citizenship" and "Humanitarianism"	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Japan-South Africa Citizenship Workshop, Conceptualizing "Citizenship" in African Context: Critical Reviews of Citizenship Studies	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
南アフリカ	University of Cape Town	NRF	